長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

事業番号	102　　－	事業名	地域いきいき事業	担当部課	福祉部長寿課

基本情報	総合計画	基本方針	3	人がいきいきとつながるまち	会計	7	介護保険特別会計
		分野別項目	8	高齢者の安心な暮らしと生きがいを支える	款	3	地域支援事業費
		施策の進め方	—		項	1	介護予防・日常生活支援総合事業費
	まちづくり行程表	フラッグ	F2	「あんしん」～助けがなかったら生きていけない人は全力で守る～	目	2	一般介護予防費
		政策分類	5	障がい者でも要介護でも認知症でも大丈夫	大事業	1	地域いきいき事業
	その他（関係法令、要綱等）	介護保険法					
	事業開始の背景、経緯等	介護保険法の改正により、全ての市町村が平成29年4月から「介護予防・日常生活支援総合事業」を開始し、高齢者に対して、地域の実情に応じた効果的な介護予防及び日常生活支援を行うことが定められたため。					

事業目的等	事業内容	（どのような事業なのか） 市民をはじめとするたくさんの主体の意欲や能力を最大限に発揮し、地域での健康づくり活動や支え合い活動等が創出されるような支援を推進する。			
	事業対象	（誰、何を対象にしているか） 主として、市内在住で要介護の認定を受けていない65歳以上の人			
	事業意図	（対象をどのような状態にしたいか） 自助、互助の力を高める。			
	事業を構成する事務事業	①　地域いきいき事業	拡充	④	
		②		⑤	
		③		⑥	

コスト推移

項目	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
事業費(A)	千円	予算			2,136	30,246	31,925
		決算			225	25,069	
人件費(B)	千円	決算			8,020	10,447	
総コスト(A)＋(B)	千円	決算			8,245	35,516	

成果推移

成果指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
A　どこでもいきいき運動教室延べ参加者数	人	目標			10	3,000	4,000
		実績			6	3,975	
B		目標					
		実績					
C		目標					
		実績					

【指標の説明】（指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など）

A　どこでもいきいき運動教室に参加した人の延べ人数

B

C

環境変化	他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化	（他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など） 近隣市町においても同様に地域の実情に応じた取り組みに着手している。 本市では平成29年3月から介護予防・日常生活支援総合事業を開始。平成29年度から予算、事業の組み直しを実施。
評価	目標達成状況	（成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など） 平成29年度は成果目標を達成した。
	事務事業全体を見た課題	（構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理） 地域での健康づくり活動や支え合い活動に興味関心が高くない人の参加につながっていない。また、参加している方でも自発的な活動につながっていかない。
今後	今後の方向性	（事業の成果を高めるための事務事業の方向性） ・事業の意図及び事業参加のメリットを適切に広報し、参加者層の拡大及び自発的な活動につなげていく。
	中長期の目標	（いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか） ・5年後を目途として、基本的に自助、互助の形を確立させ、市民や企業等様々な主体の自発的な活動へと移行させていきたい。

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

事業名	地域いきいき事業

番号	①	事務事業名	地域いきいき事業	款	3	項	1	目	2	大事業	1	中事業	1
事務事業の期間	事務事業開始年度	平成28年度	終了（予定）年度	平成40年度									

1.事務事業の目的

対象・手段	（誰、何に対し、何をどのように実施しているのか） 市民をはじめとするたくさんの主体の意欲や能力を最大限に発揮し、地域での健康づくり活動や支え合い活動等が創出されるような支援を推進する。それによって、主として、市内在住で要介護の認定を受けていない６５歳以上の人の介護予防・日常生活支援を推進する。
意図	（対象をどのような状態にしたいか） 自助・互助の力を高める。

2.コスト推移

項目	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
事業費	千円	予算			2,136	30,246	31,925
		決算			225	25,069	

＜事業費の主な内訳（当該事業年度）＞

① いきいきライフ推進事業委託	13,386 千円
② いきいきサービス事業委託	10,858 千円
③ 印刷製本費	270 千円

3.活動推移

活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
どこでもいきいき運動教室延べ参加者数	人	目標			10	3,000	4,000
		実績			6	3,975	
		目標					
		実績					

＜備考：活動の概要（当該事業年度）＞

市民が集まる場への運動講師の派遣や事業者の創意工夫を活かした教室の開催等を通して、市民をはじめとする多くの主体の参加による地域での介護予防活動や支え合い活動が創出されるような支援を行う。

4.事務事業を取り巻く環境変化

（制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など）

近隣市町においても同様に地域の実情に応じた取組に着手している。
本市では平成29年3月から介護予防・日常生活支援総合事業を開始。平成29年度から予算、事業の組み直しを実施。

5.前年度からの改善状況

＜参考：前年度の事務事業評価のコメント＞

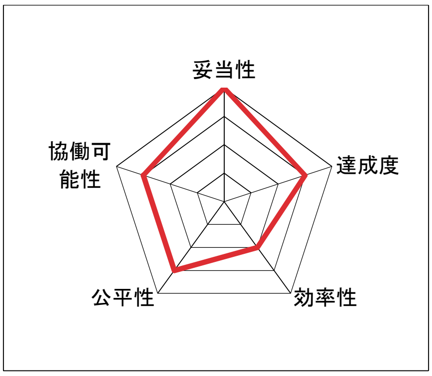
【前年度「一次予防事業」及び「二次予防事業」より】
平成２９年３月から総合事業が開始され、これまでの介護予防事業はゼロベースで見直しを行った。
平成２９年度からは、より多くの市民が主体的に介護予防活動に参加でき、また地域の様々な場所で介護予防活動を展開できるよう、サロンへの運動講師の派遣をはじめ、地域にサロンを増やしていく事業を行っていく。

（何をどのような状態に改善したのか）

平成２８年度に行った準備事業「地域いきいきライフ普及啓発事業」から引き続き、平成２９年度は本格的に新しい事業に着手した。地域に健康づくり活動や支え合い活動を広めていくきっかけを示すことができた。
（総合事業が開始された平成２９年３月はほぼ準備期間にあてられたため実績が少ないが、４月以降本格実施されたため実績が大幅に増えている）

6.評価

項目	評価
妥当性	4
達成度	3
効率性	2
公平性	3
協働可能性	3



【アピールポイント】

（活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど）

これまでの介護予防事業のあり方を転換し、地域に健康づくり活動や支え合い活動を広めていくきっかけを示すことができた。

【ウイークポイント】

（活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど）

地域での健康づくり活動や支え合い活動に興味関心が高くない人の参加につながっていない。また、参加している方でも自発的な活動につながっていかない。

7.今後の方向性

拡充

【コメント】

（改善の方法、今後の具体的展開など）

事業の意図及び事業参加のメリットを適切に広報し、参加者層の拡大及び自発的な活動につなげていく。